

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	構造設計における冗長性と性能最適化小委員会	主 査 名：竹脇 出 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 応用力学運営委員会	委員長名：中島正愛 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築構造設計に関わる冗長性の概念の分析とモデル化および定量化、さらには、性能最適化された構造物とリダンダンシーを重視した設計の関係等について調査・研究を行う。 ・ 2009、2010：リダンダンシー・性能最適化などの概念に関する調査研究 ・ 2011：大会 PD (2011 年度の技術部門設計競技と連携) ・ 2012：応用力学シリーズ刊行 (2013) のための原稿作成 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：竹脇 出 (京都大学) 幹事：高田豊文 (滋賀県立大学)・ 山川 誠 (京都大学) 委員：浅岡泰彦 (大林組)・朝川 剛 (日建設計)・磯部大吾郎 (筑波大学)・伊藤拓海 (東京理科大学)・寒野善博 (東京大学)・曾我部博之 (愛知工業大学)・趙衍剛 (神奈川大学)・ 福田隆介 (鹿島建設)・中村尚弘 (竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2012 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む) メールによる審議多数回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 応用力学シリーズ 12『建築構造設計における冗長性とロバスト性』(2013 年 6 月刊行予定) の刊行に向け本格的な議論に入り、全 12 章を執筆した。各章間の関連性やつながりについても十分な査読・議論を行い、一貫性のある資料としてまとめることができたと考えている。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. 冗長性・ロバスト性・レジリエンスについての用語の整理をさらに進めたい。また、これらの関連性や定量化についても議論を進めたい。